

あいなんちょう いせき 愛南町の遺跡 - 5 -

平成30年12月

愛南町教育委員会

ざるごえじょう いよ と さ さかい やまじろ 猿越城 - 伊予・土佐境の山城

げんざい さかのぼ やく ねんまえ にほん かくち ぶけ くげ せいりよくあらそ く かえ
現在を遡ること約440年前、日本の各地で武家や公家が勢力争いを繰り返してしま
た。いわゆる戦国時代です。特に戦国時代の終わり頃、織田信長が近畿地方の中央の支配
かくりつ しこく おお じだい てんかんき むか
を確立するのですが、四国においても大きな時代の転換期を迎えていました。

ころ しろく ぜんいき しばい と さ ちょうそかべもとちか どういつ
その頃、後に四国のほぼ全域を支配することとなる土佐の長宗我部元親が、土佐の統一
めざ はた なんよ えいきょうりよく も いちじょうかねさだ こうせい
を目指し、幡多から南予に影響力を持っていた一条兼定に攻勢をかけていきます。

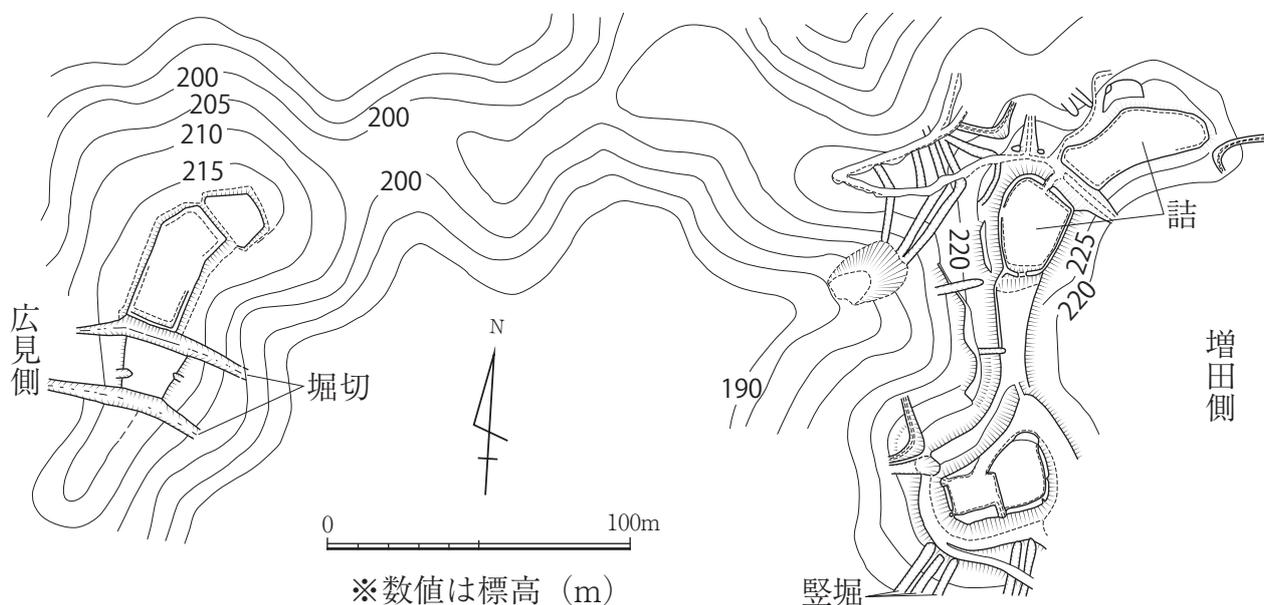


とうじ はた なんよ いた ぶけ おお えいきょうか
当時の幡多から南予に至るまでの武家の多くは、この一条氏の影響下に置かれていま
げんざい あいなんちょう りょうしゅ みしょうし せいりよく こうちけんすくもし
た。現在の愛南町の領主であった御荘氏も一条氏に仕えており、その勢力は高知県宿毛市
まで及んでいたという記録があります。今回は、御荘氏が作った城の中で、伊予土佐の
くにざかい ちか きぼ おお しろ なか いよとさ
国境に近く、規模の大きな城であった「猿越城」を取り上げます。

ざるごえじょう いっぽんまつ しょざい やまじろ ぼんち ちゅうおう いち こうじょう
猿越城は、一本松に所在する山城です。一本松の盆地のほぼ中央に位置しており、工場
の裏にそびえる山にあります。

城といっても、松山城や姫路城とは大きく異なり、石垣や土堀そして天守閣を持ってい
ませんが、押し寄せる敵を簡単に上らせない工夫を至るところに凝らせています。

猿越城の場合、一本松町政時代に、それらの工夫の痕跡について、考古学の視点に基づ
いて測量し図化した図面である「縄張図」を作成していました。それが下の図です。



さて猿越城は、広見側の砦と増田側の砦に分けることができます。上空から見ると、二
つの砦が宿毛方面、おそらくは松尾峠を越えて小山方面から攻めてくる敵に対して、両腕
を大きく広げて迎え撃つような構造になっています。広見側の砦には、南つまり小山方面
から山の尾根を伝って登ってくる敵を遮るための、「堀切」という防禦施設があります。

増田側の砦には、「詰」という広場が三ヶ所作られており、それぞれに「土塁」という
土手のような施設を作っています。それだけでなく、最も南の詰には、「豎堀」という施
設を作っています。やはり南からの攻撃を意識していたと考えるのが自然でしょう。

一条氏の敗退後、御荘氏は長宗我部氏から強い圧力を受けるのですが、この猿越城が長
宗我部氏の手には落ちる際には、長宗我部氏の軍勢が松尾峠を越えて攻めてきたという話が
あります。しかし長宗我部氏の軍勢の主力は、実は正木の方から攻めてきたため、猿越
城は防禦の手薄な北側から攻められる形となりました。猿越城の落城後、緑城・常盤城・
大森城と失い、御荘氏は久良に逃れることとなります。久良の愛媛県指定無形民俗文化財
「能山踊り」は、御荘氏最後の当主を供養することを目的に始まったと伝わっています。

文化財の保護にご理解とご協力をお願いします！

文化財は、壊されてしまうと元に戻すのが極めて難しいものです。皆様のお住いの地域にどのような文化財があるかについては、教育委員会生涯学習課までお問い合わせください。…お問い合わせは、生涯学習課（電話0895-73-1112）まで。